

# the people

元気なまちには 元気な主張を続け  
元気に行動する 市民がいる

## みんなの畑 収穫祭

コロナ禍の影響で、なかなか思うように事業を進められなかった今年のコットン栽培。地域外からコットン畑に足を運んで下さる方ははめっきり減ってしまいました。そんな中で大きな力となってきていたのが、「みんなの畑」のメンバーたちです。原発避難者を中心に、毎月1回小名浜上神白地内のコットン畑に集まって、コットンや野菜の有機栽培に取り組んでいる仲間たちです。今年は、空心菜や四角豆、ヤーコンといった珍しい野菜の栽培にもチャレンジし、定例の活動日だけではなく畑を覗いては交流を進めてきました。

その仲間たちと一緒にコットンの収穫を祝う収穫祭を11月12日に催すことになりました。コロナ禍が漸く落ち着きを見せてきたことから、一般の方にもご参加いただけるお祭りにしました。おにぎり1個持参して頂くことになっています。参加希望の方は事前の申し込みが必要です。事務局までご連絡下さい。

なお、この事業は令和3年度福島県内避難者・帰還者心の復興補助金助成事業として実施するものです。



▲参加を呼掛ける収穫祭チラシ

## 子供たちも一緒にコットンを育てる

今年度、コットン栽培を行ってくれている小学校は、いわき市立大浦小学校・高久小学校・高坂小学校の3校です。このうち高久小学校では、コットンを育ててくれている子供たちと一緒にコットンペイプを作る教室が、10月15日に開催されました。思い思いにデコレーションしたコットンペイプたちの出来上がりに、子供たちは大満足。「かわいい、かわいい」と歓声を上げていました。

残る2校では、11月と1月に収穫されたコットンを使っての糸紡ぎ教室の開催が予定されています。こちらには「みんなの畑」のメンバーやコットンの糸紡ぎを行っている「織姫の会」のメンバーも加わり、交流を行うことになっています。



▲コットンペイプの作り方を聞く子供たち

コットン栽培を通じた多世代交流。次年度は更に広がりを見せてくれることを願っています。なお、この事業も令和3年度福島県内避難者・帰還者心の復興補助金助成事業として実施するものです。

the people (NPO法人ザ・ピープル)  
令和3年(2021年)11月号

発行:特定非営利活動法人 ザ・ピープル

代表者:吉田 恵美子

所在地:〒971-8168 福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6

TEL:0246-52-2511 FAX:0246-92-4298

URL:http://npo-thepeople.com/

E-mail:the-people@email.plala.or.jp

onahama.volunteer@gmail.com



## 大学生とコラボしてのコットン栽培

今年度、地球環境基金の助成を受けて本会が取り組んでいる事業が、地元の東日本国際大学のライオンズクラブとコラボしてのコットン栽培と、収穫されたコットンを手紡ぎするためのチャルカを介したネパールの女性たちとの交流です。

コロナ禍の中、年度当初はその実施に暗雲が立ち込めているような状況でしたが、何とか無事に事業を進めることが出来ています。

10月17日の活動日には、附属昌平高校の生徒も参加して、20名という大所帯での活動となりました。あいにくの雨模様で、実際の収穫作業は午前中のみとなりましたが、作業に先立ってプロジェクトの紹介を大学生が行い、私たちの想いを代弁してくれました。そして、午後からの綿繰りや糸紡ぎの体験でも指導役は全て大学生。これまでの活動の継続が身につけていることを実感できました。更に、今年度も開催しているコットンアイデアコンテストへの応募作品作りにも励んでもらい、充実した一日となりました。

ネパールとの交流事業は、コロナ禍の影響で実施が危ぶまれていましたが、昨年度綿繰りなどの道具をカトマンズ在住の渡辺陽菜さんの元まで送って、それを実際に現地に運んでいただくという形で実現することが出来ました。チトワン在住の留学生ご家族を中心とした女性たちに、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の説明を改めてして、チャルカなどの道具がチトワンで使われるように、お話をさせて頂きました。オンラインでつないでの交流では、ネパールで大きな木に育つコットンの写真も見せてもらいながら、和やかな会話を楽しみました。このご縁が今後も継続することを願っています。



▲活動に参加する学生たち



▲チャルカを見つめる女性たち

## ミクロネシア事業

JICA草の根技術協力事業では、ミクロネシアの離島の女性たちがソーラーミシンでものづくりを始めています。10月末には漸く本島のマーケットで販売することも決まり、民族衣装のスカートやムームー、マスクなどの製作に女性たちが取り組んでくれています。この取組みは、他の離島の女性たちにとっても興味深いもののように、先日は視察を希望する島のリーダーがこの取組みを進めるフォトン島の女性たちを訪問したことも報告されています。

島に根付くプロジェクトになることを私たちは応援していきたいと思えます。